

入選

作文部門

中学生の部

次世代に繋ぐ大切な道

富士市立富士中学校 三年 千葉 大聖

午後十時十分。塾の帰り道、信号待ちをしていると、道路工事をしていく作業員の人と工事車両が目に入った。信号が青に変わり、近くまで行くと、工事のおじさんに、こちらを通るようにと脇道に誘導された。工事の看板には、古くなった下水道管を直しているというようなことが書いてあった。

家に帰り、シャワーを浴びていると、あまりにも浴びている時間が長かったのか、「水道代が高くなるから、無駄遣いするなよ。」と親に怒られた。

お風呂から出ると、「使った水の分だけ水道代がかかるし、その使った量に応じて下水道使用料も払うことになるんだよ。」と言うことを親が教えてくれた。見せられた「使用水量等のお知らせ」と書かれた小さな紙には、水道料金と並んで下水道使用料金が書いてあった。そう言えば、小学生の頃、社会科見学で浄化センターに行って、下水道のことを勉強した記憶はあるけど、水道料金と併せて、下水道についてもお金が払われているという意識は全くなかった。ふと、先ほど塾の帰り道に遭遇した下水道工事のことを思い出して、「下水道を使うのもお金がかかるのか。」

下水道のことが気になり始めた僕は、下水道のことについて調べてみた。「下水道は、汚れた水をそのまま川や海に流さないためにある」程度の認識しかなかったが、日本下水道協会のHPによるとその役割は四つあった。

一つは、僕が認識していた、街や工場から下水道管を通って流れてきた汚れた水を浄化センターできれいにして川や海に戻す「身近な環境を守る」二つ目は、下水道が整備され、汚れた水が街中から排除されることで「街を清潔にする」三つ目は、近年短時間で局地的に大量の雨が降る「ゲリラ豪雨」の発生件数が、全国的に増えているが、そういったとき、街に降った雨を速やかに排除し、街が水浸しにならないように「街を浸水から守る」そして四つ目が、浄化センターできれいな水を利用したり、処理の過程で発生したガスをエネルギーとして利用

する「エネルギー・資源を創る」だ。

下水道の歴史も古く、奈良時代には排水溝も作られていたようだが、明治時代になり、人々が東京などの都市に集まるようになって、大雨などで家が水に浸かったり、流れず貯まったままの汚い水が原因で、コレラなどの伝染病が流行った。そこで、明治十七年に東京の神田地区に日本人の手によってヨーロッパ式の最初の下水道が作られた。下水道の四つの役割の一つ「街を清潔にする」が、下水道に課せられた最初の役割だったんだと感じた。時代とともにその役割も増えてきた下水道だが、これからの未来に向けて、さらなる役割が増えていくのではないかと感じた。そう考えると、下水道の施設が古くなって壊れていたら、この先、新たな役割を担ってもらうことが出来ないの、下水道の施設をこれから維持していくことが大切になると感じた。

快適な生活環境を維持する上で、僕たちの生活に欠かせない、大切な役割を担う下水道だが、下水道を維持していくことについて、様々な課題もあることがわかった。僕が住んでいる富士市の下水道事業も、昭和四十年に吉原処理区で始まった。一番古い施設は五十年以上経過していることになる。

つまり、施設の老朽化による維持管理費の増加、これが一つ目の課題だ。また、維持管理のためにお金が必要だが、人口減少によって収入が減少している。これが、二つ目の課題だ。このため、必要な工事でも可能な範囲で先送りしたり、借金したりして、何とか施設を維持しているようだ。この先、下水道は大丈夫か不安になったが、将来にわたって下水道事業を続けていくために、富士市も「経営戦略プラン」という計画を立てて下水道事業を行っているのと知って、少し安心した。

下水道施設の維持管理にかかるお金を減らすためには、施設を大切に使う必要がある。油や洗剤などを下水道に流すことは下水道管の劣化を早め、浄化センターでの処理により多くの負担がかかるという。そこで、僕は、シャンプーやドレッシングは適量を使う、排水溝に詰まったゴミを取り除く、食べ残しが台所の排水溝に入り込まないように、残さず食べるなど、出来ることから始めて、下水道に優しくしたい。

最近、SDGsという言葉が学校で習ったが、その十七のゴールのうち、「六・安全な水とトイレを世界中に」、「十四・海の豊かさを守る」の達成に下水道は重要な役割を担っていると思う。そのためにも、この「下水道を次世代にしっかりと引き継いでいくことが、今を生きる僕たち世代に与えられた使命であると強く感じた。